

平成30年度学校評価の報告について

○学校評価は、「学校運営の改善を目指し、教育水準の向上を図る」ことを目的とし、各学校園が、自校(園)の教育活動その他の学校運営の状況について、以下のとおり評価を行い、その結果に基づき必要な措置を講ずることが、平成19年改正された学校教育法、同法施行規則に示されている。

- ①教職員による自己評価を行い、その結果を公表すること
- ②学校の自己評価について保護者などの学校の関係者による評価（「学校関係者評価」）を行うとともにその結果を公表するよう努めること
- ③自己評価の結果・学校関係者評価の結果を設置者に報告すること

○文京区教育委員会では、法改正に基づき平成20年度より学校評価を実施している。平成21年4月に「文京区立学校関係者評価委員会設置要綱」を定め、「学校関係者評価委員会」を組織して、学校関係者評価を実施することとした。平成22年度には、各学校からの学校評価報告とともに、区全体の状況を把握するための参考として、学校関係者評価に区共通項目を策定した。

○ここに、平成30年度学校評価の報告における区立学校(園)の重点目標及び目標ごとの学校関係者評価とともに、学校関係者評価区共通項目の集計結果を示す。

○教育委員会では、各学校からの学校評価報告を受け、学校支援の具体的な手立てを講じるとともに、教育施策の実行状況や進展状況を把握する資料とする。

平成30年度学校関係者評価共通項目（集計結果）

(園)

幼稚園		A	B	C	D	区平均	
1	重点目標（中・短期経営目標含む）が、適切である。 （課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	4.00	A
2	具体的取組の設定は、適切である。 （目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	4.00	A
3	自己評価の分析は適切である。 （成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか）	10	0	0	0	4.00	A
4	課題に対する改善策は適切である。 （有効とされる改善策が明確に示されているか）	10	0	0	0	4.00	A
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 （学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか）	10	0	0	0	4.00	A

(校)

小学校		A	B	C	D	区平均	
1	重点目標（中・短期経営目標含む）が、適切である。 （課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか）	20	0	0	0	4.00	A
2	具体的取組の設定は、適切である。 （目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか）	20	0	0	0	4.00	A
3	自己評価の分析は適切である。 （成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか）	20	0	0	0	4.00	A
4	課題に対する改善策は適切である。 （有効とされる改善策が明確に示されているか）	19	1	0	0	3.95	A
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 （学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか）	20	0	0	0	4.00	A

(校)

中学校		A	B	C	D	区平均	
1	重点目標（中・短期経営目標含む）が、適切である。 （課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	4.00	A
2	具体的取組の設定は、適切である。 （目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか）	9	1	0	0	3.90	A
3	自己評価の分析は適切である。 （成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか）	9	1	0	0	3.90	A
4	課題に対する改善策は適切である。 （有効とされる改善策が明確に示されているか）	10	0	0	0	4.00	A
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 （学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか）	9	1	0	0	3.90	A

※各関係者評価委員が4段階で評価した学校(園)の平均値を下記の基準をもとにABCDの4段階で評定したもの。
 (A: 4～3.4以上、B: 3.4未満～2.6以上、C: 2.6未満～1.8以上、D: 1.8未満)

平成30年度文京区立幼稚園・小中学校 学校評価 重点目標

※数字は、重点目標に設定した学校園数

幼稚園（10園）		小学校（20校）		中学校（10校）	
家庭・地域との連携	9	学力向上	20	学力向上	10
心と体の育成	8	豊かな心・人間性・感性の育成	19	豊かな心・人間性の育成	10
安全・安心な園づくり	8	健康・体力の保持増進	15	体力向上	8
信頼される園づくり	8	家庭・地域との連携	14	特色ある学校づくり	7
教職員連携（チーム力向上）	7	学校（組織）力の向上	10	信頼される学校づくり	7
一人一人のよさを引き出す教育	6	特色ある教育の実践	8	生活指導の充実(健全育成)	6

平成30年度 保護者アンケート(区共通項目)集計結果

質問項目	幼稚園					わからな い・無回 答(%)
	とても あてはま る(%)	まあ あてはま る(%)	あまり あてはま らない(%)	まったく あてはま らない(%)	わからな い・無回 答(%)	
1 本校(園)の教育活動に満足している。	69.4	26.7	2.9	0.0	1.0	
2 本校(園)の子どもたちは、学校が楽しいと感じている。	79.4	19.3	0.8	0.3	0.2	
3 本校(園)では、一人一人が大切にされ、子どもの人権に配慮した教育が行われている。	70.7	25.2	2.6	0.3	1.3	
4 本校(園)は、特色ある学校(園)づくりに積極的に取り組んでいる。	75.7	20.1	2.7	0.8	0.7	
5 本校の授業は、子どもにとって分かりやすい内容である。【小・中学校】						
6 本校(園)は、一人一人の幼児理解に努め、適切な保育に努めている。【幼稚園】	68.7	27.1	2.8	0.2	1.3	
7 本校(園)では、子どもとの安全管理や事故防止に努めている。	60.4	30.5	3.3	0.7	5.1	
8 本校(園)では、保護者や地域に対し、積極的に情報を発信している。	70.8	25.9	2.5	0.0	0.8	
9 本校(園)は、保護者の意見・要望を受け止めながら、協力して教育を進めようとしている。	63.6	31.4	2.4	0.7	1.9	
10 来校時や電話での本校(園)の教職員の学校職員とのあいさつや対応は、適切である。	63.4	28.2	4.9	1.0	2.6	
11 現在の本校(園)に総合的に満足している。(幼稚園のみ)	80.9	16.6	1.6	0.8	0.1	
	73.1	22.8	3.0	0.1	1.0	

質問項目	小学校					わからな い・無回 答(%)
	とても あてはま る(%)	まあ あてはま る(%)	あまり あてはま らない(%)	まったく あてはま らない(%)	わからな い・無回 答(%)	
	47.6	46.8	3.4	0.7	1.5	
	51.5	39.2	6.5	1.1	1.7	
	42.6	46.8	4.7	0.9	5.1	
	46.3	41.4	5.8	0.5	4.0	
	43.5	48.1	4.7	0.5	3.2	
	33.3	39.9	6.2	1.7	19.0	
	47.0	44.8	3.7	0.7	3.8	
	48.3	43.3	5.1	1.1	2.2	
	42.2	45.9	4.9	0.9	6.2	
	65.3	29.8	3.4	0.6	0.9	

質問項目	中学校					わからな い・無回 答(%)
	とても あてはま る(%)	まあ あてはま る(%)	あまり あてはま らない(%)	まったく あてはま らない(%)	わからな い・無回 答(%)	
	29.6	60.2	7.3	1.2	1.7	
	32.0	55.7	6.6	1.1	4.7	
	27.5	54.7	9.9	1.4	6.5	
	25.6	48.2	14.0	1.3	10.9	
	16.8	57.2	11.3	1.4	13.3	
	21.4	41.2	8.3	2.2	26.9	
	31.5	55.2	4.3	0.6	8.4	
	32.6	51.3	9.3	1.1	5.7	
	29.9	49.8	8.3	1.8	10.2	
	55.8	39.2	3.3	0.6	1.2	

※ 数値は、各学校の平均値

幼稚園・小・中学校 重点目標ごとの関係者評価【意見】抜粋

幼稚園	遊びの充実	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを通して、子どもたちを成長させていく活動は、小学校でも見習うところが多い。よりよい連携を図ることで子どもたちの成長につながる。 「日本の季節行事、伝統文化」については家庭で経験することが少なくなってきたため、保育園でも課題と感じている。
	家庭と地域	<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士が知り合うきっかけになる保護者会や参観日を今後も企画していく。 保護者がサービスを求めてくることは、保育園も同様。集団の中でやるべきことと、家庭が担う部分の住み分けをしっかりと考えたほうがよい。今は親育てをすることも幼稚園の役目となっている。 虐待が社会問題になっているが、逆に園に来ていることで子どもたちが守られている状況でもあると思う。地域の目が大事であることを改めて感じている。
	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革は、どの校種にも必要なことである。それには、保護者の理解がないとできないこともある。教員が手を抜いたのではなく、子ども成長のための改革をし、それを説明していくことが大切である。 預かり保育があることにより、先生たちが遅くまで勤務している様子を見受ける。働き方改革を意識していけるとよいのではないか。
小学校	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすい授業での評価において、肯定的評価が9割弱と高評価であったのはユニバーサルデザイン、アクティブラーニング、電子黒板等の研究や活用により、どの子にもわかりやすい授業を目指した結果だと考えられます。前年度以上に電子黒板を使ったICT教材を使った授業が展開されており、児童の授業への集中力が更に高まっていたように見受けられました。タブレット端末の利用も増えており、学習意欲を高めるツールとして定着してきています。 新学習指導要領のめざす「主体的・対話的で深い学び」の具現化のために、「思考力・判断力・表現力」を育てる問題解決型の学習を重視して授業を進めている。英語教育も校内研で共通理解を図りながら、コミュニケーション能力の向上に努めている。
	人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストにおける合計点が4学年で全国平均を上回り、「進んで運動している」に対して肯定的な回答をした児童85%である点は高く評価できる。また従来通り、給食の残菜率が極めて低い点は本校の特徴の一つであり、食育の上で特筆すべき成果である。 学年が上がるに連れ、また学期が進むに連れ、学習姿勢にはどうしても「中だるみ」が生じることと想像される。中学年以降などは「できていない子を注意する」というアプローチのみでなく、「やりたくなる」意欲を高めるアプローチとの両輪で進めることも検討された。
	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教室で個別に学べる機会があるのはいいことだと思う。一人一人に応じた教育を進めていくのは大変さがあると思うが大切なことだと思う。盲学校の教員を招いたり、ブラインドサッカー体験等を実施したりして、目の不自由な方との交流の場を設け、共生社会に生きるために必要な心とスキルの育成に取り組んでいる。 インクルーシブ教育システムが構築されて終わりではなく、これまで以上に個への配慮が必要な場面にどのように対応していくのか、システムを継続的にブラッシュアップしていく必要があるでしょう。特別支援教育の拠点校として、この取組を文京区全体へ広げていく責任があります。
中学校	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 授業が「分かりやすい」の設問に対して、生徒の肯定的な数値が85%を超えているというのは、新学習指導要領に向けた教員意識の表れと思われる。また、電子黒板やタブレットを有効的に活用しながら授業改善を進めることが、すべての教科において反映されてきた。 タブレット端末を活用した学習について、直接生徒から「楽しい、分かりやすい」という声を聞いた。自ら学習する習慣を身に付けるための手段として、授業中の使用に留まらず1年生のうちから自主学習、家庭学習でも活用できるように改善していただきたい。
	開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会と学校関係者評価委員会が連携し、授業参観などの機会を通して意見交換の場を設けるなど、学校関係者全体での教育・指導を支援する連携体制が確実に機能してきた。個人から学校レベルまで、それぞれ継続的な向上意識のもと、コミュニティ・スクールとして安全・安心かつ地域に密着した中学校の「校風」が確立してきたと言える。「校長室通信」が地域町会の掲示板に掲示されるようになったことで、立ち止まって読んでいる方もおり、学校と地域の関係、教育活動への理解が深まっていることを実感する。 保護者アンケートの「学校による情報発信」に対する項目において、13%の保護者が積極的でないと評価している。学年通信、学校だより等の様々なお知らせは見るが、ホームページなどでの広報活動が足りないと感じる。区内の公立校一般に言えることであるが、さまざまな活動を小学生の保護者にもっとPRすることが重要である。公立校の実態を知らせる活動のより一層の充実を期待したい。
	家庭と地域	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が地域行事にボランティアで参加している。行事や土曜公開でも多くの見学をいただいで好意的な評価をいただいている。保護者・地域からの信頼が得られつつあると考える。関係者の数々の努力が入学希望者数に結実したといえる。 保護者のアンケートにおいて、『わからない』と答えている項目があるので、連絡の方法や周知、理解のための発信に努めるべきである。

